

興福寺中金堂前の燈籠台石

興福寺中金堂の前の階段の最下段より南に5mのところに燈籠台石があり、昭和34年2月に寺が清掃した。それが八弁の蓮座をもつ花崗岩製で室町時代のもので推定された。また別にその周囲に幅20〜40cmの凝灰岩を六角形に組合した、径2.2mの燈籠台石下の布石もあることが判明した。これは現地表下15cmにあり、地層の点から創建時ではなく、平安時代頃のものと考えられた。